

基本計画書

基本計画書											
事項		記入欄							備考		
計画の区分		研究科の専攻の設置									
フリガナ 設置者		コクリツダクハクホウジン ミヤザキダクハク 国立大学法人 宮崎大学									
フリガナ 大学の名称		ミヤザキダクハクダクイン 宮崎大学大学院 (University of Miyazaki Graduate School)									
大学本部の位置		宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地									
大学の目的		本法人及び本学は、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産を継承・発展させ、豊かな人間性と創造的な課題解決能力を備えた人材の育成を目的とし、学術・文化の基軸として、地域社会及び国際社会の発展と人類の福祉の向上に資することを使命とする。									
新設研究科等の目的		本学が位置する宮崎県の深刻化・多様化する心の健康課題に対して貢献することができると期待されている公認心理師が不足しているという状況や、保健医療、福祉、教育などのステークホルダーからの公認心理師養成機能強化を求める声を背景に、国家資格である公認心理師の受験資格取得が可能な大学院健康科学研究科心理科学専攻（修士課程）を設置する。 本専攻は、科学者－実践家モデルに基づいて、科学的根拠に裏づけられた心理療法の一つである認知行動療法を実践することのできる高い専門的知識と技能を修得するとともに、高い倫理観と責任感を兼ね備え、心理支援のリーダーとして地域社会の心理的課題の解決に寄与できる高度専門人材を養成することを目的とする。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	14条特例の実施	
	健康科学研究科 [Graduate School of Healthcare Sciences]	年	人	年次 人	人	修士（心理学） [Master of Psychology]	文学関係	年月 第 年次	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地		
	心理科学専攻 [Department of Clinical Psychological Science] 計	2	6	—	12			令和9年4月 第1年次			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		令和9年4月名称変更予定 看護学研究科→健康科学研究科 看護学研究科看護学専攻修士課程→健康科学研究科看護学専攻博士前期課程 健康科学研究科 看護学専攻（D） (3) （令和8年3月意見伺い） 農学工学総合研究科 資源環境科学専攻（D）[定員増] (1) （令和9年4月） 物質・情報工学専攻（D）[定員増] (3) （令和9年4月）									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計						
	健康科学研究科 心理科学専攻	10科目		5科目	7科目	22科目	42単位				
研究科等の名称				専任教員					助手	専任教員以外の教員 （助手を除く）	令和8年3月意見伺い
				教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	健康科学研究科 心理科学専攻（修士課程）	3 (3)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	10 (9)			
	健康科学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	13 (13)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	8 (8)			
	計	16 (16)	7 (7)	2 (2)	3 (3)	28 (28)	0 (0)	— (—)			
既	教育学研究科 教職実践開発専攻（専門職学位課程）	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	48 (48)			
	健康科学研究科 看護学専攻（博士前期課程）	10 (10)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	0 (0)			
	工学研究科 工学専攻（修士課程）	39 (39)	36 (36)	0 (0)	18 (18)	93 (93)	0 (0)	25 (25)			
	農学研究科 農学専攻（修士課程）	34 (35)	33 (34)	1 (1)	7 (7)	75 (77)	0 (0)	0 (0)			
	地域資源創成学研究科 地域資源創成学専攻（修士課程）	11 (11)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)			

設	医学獣医学総合研究科 医科学獣医科学専攻（修士課程）		54 (54)	21 (21)	3 (3)	3 (3)	81 (81)	0 (0)	0 (0)		
	医学獣医学総合研究科 医学獣医学専攻（博士課程）		57 (57)	21 (21)	2 (2)	2 (2)	82 (82)	0 (0)	0 (0)		
	農学工学総合研究科 資源環境科学専攻（博士後期課程）		28 (29)	29 (29)	0 (0)	4 (4)	61 (62)	0 (0)	0 (0)		
	農学工学総合研究科 生物機能応用科学専攻（博士後期課程）		13 (13)	10 (11)	0 (0)	2 (2)	25 (26)	0 (0)	1 (1)		
	農学工学総合研究科 物質・情報工学専攻（博士後期課程）		27 (28)	28 (28)	0 (0)	4 (4)	59 (60)	0 (0)	0 (0)		
分	計		285 (288)	197 (199)	12 (12)	42 (42)	536 (541)	0 (0)	－ (－)		
合 計			301 (304)	204 (206)	14 (14)	45 (45)	564 (569)	0 (0)	－ (－)		
職 種			専 属			その他		計			
事 務 職 員			498 (498)			0 (0)		498 (498)			
技 術 職 員			1,033 (1,033)			0 (0)		1,033 (1,033)			
図 書 館 職 員			5 (5)			0 (0)		5 (5)			
そ の 他 の 職 員			73 (73)			0 (0)		73 (73)			
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計			1,609 (1,609)			0 (0)		1,609 (1,609)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		494,130㎡		0㎡		0㎡		494,130㎡		
	そ の 他		7,356,114㎡		0㎡		0㎡		7,356,114㎡		
	合 計		7,850,244㎡		0㎡		0㎡		7,850,244㎡		
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
			136,960㎡ (136,960 ㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		136,960㎡ (136,960 ㎡)		
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室			講義室		実験・実習室		演習室		新設研究科等の 専任教員研究室		
			102室		914室		113室		6室		
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	
	健康科学研究科 心理科学専攻		622,586 〔183,846〕 (622,586 〔183,846〕)		4,853 〔 3,133 〕 (4,853 〔 3,133 〕)		15,106 〔4,489〕 (15,106 〔4,489〕)		6,658 〔6,658〕 (6,658 〔6,658〕)	40,308 (40,308)	66 (66)
	計		622,586 〔183,846〕 (622,586 〔183,846〕)		4,853 〔 3,133 〕 (4,853 〔 3,133 〕)		15,093 〔4,475〕 (15,093 〔4,475〕)		6,658 〔6,658〕 (6,658 〔6,658〕)	40,308 (40,308)	66 (66)
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		教員1人当り研究費等			—	—	—	—	—		
		共同研究費等			—	—	—	—	—		
		図書購入費		—	—	—	—	—	—		
		設備購入費		—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金				第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
					— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要				該当なし							
	大 学 の 名 称		宮崎大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
	教育学部 学校教育課程		4	140	—	520	学士（教育学）	1.09 《1.08》	平成28年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
		医学部								宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地	

令和6年度入学定員増（20人）

令和6年度入学定員増（20人）

既設大学等の状況	医学科	6	100	—	620	学士（医学）	1. 01 《1. 00》	平成15年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番地	「緊急医師確保対策」及び「経済財政改革の基本方針2009」による臨時定員増（10人（令和2, 3年度））	
	看護学科	4	60	—	240	学士（看護学）	1. 03 《1. 01》	平成15年度			
	工学部										
	工学科	4	370	3年次 10	1500	学士（工学）	1. 02 《0. 98》	令和3年度			
	環境応用化学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	社会環境システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	環境ロボティクス学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	機械設計システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	電子物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	電気システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	情報システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成24年度			令和3年度より学生募集停止
	農学部								宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番地	令和7年度より学生募集停止	
	農学科	4	235	—	235	学士（農学）	1. 03	令和7年度			
	獣医学科	6	30	—	180	学士（獣医学）	1. 12 《1. 07》	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	植物生産環境科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	森林緑地環境科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	応用生物科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	海洋生物環境学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	畜産草地科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成22年度			令和7年度より学生募集停止
	地域資源創成学部								宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番地		
地域資源創成学科	4	90	—	360	学士（地域資源創成学）	1. 08 《1. 05》	平成28年度				

大 学 院 の 名 称	宮崎大学大学院									
研 究 科 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度			
	年	人	年次 人	人		倍				
教育学研究科 （専門職学位課程） 教職実践開発専攻	2	20	—	40	教職修士（専門職）	0. 92	令和2年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番地		
健康科学研究科 （修士課程） 看護学専攻	2	10	—	20	修士（看護学）	1. 15	平成26年度			
工学研究科 （修士課程） 工学専攻	2	144	—	288	修士（工学）	1. 15	平成28年度			
農学研究科 （修士課程） 農学専攻	2	68	—	136	修士（農学） 修士（水産学） 修士（学術）	1. 05	平成26年度			
地域資源創成学研究科 （修士課程） 地域資源創成学専攻	2	5	—	10	修士（地域資源創成学）	1. 20	令和2年度			

	医学獣医学総合研究科 (修士課程) 医科学獣医科学専攻 (博士課程) 医学獣医学専攻 医学系研究科 (博士課程) 医学専攻 農学工学総合研究科 (博士後期課程) 資源環境科学専攻 生物機能応用科学専攻 物質・情報工学専攻	2 4 4 3 3 3	10 23 — 7 4 5	— — — — — —	20 92 — 21 12 15	修士 (医科学) 修士 (動物医科学) 博士 (医学) 博士 (獣医学) 博士 (医学) 博士 (農学) 博士 (工学) 博士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	1. 05 1. 56 — 1. 09 1. 41 1. 86	平成26年度 平成22年度 平成20年度 平成19年度 平成19年度 平成19年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地 宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地 宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地 宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	平成22年度より学生募集停止
附属施設の概要	名称：先端研究推進本部 目的：宮崎大学における先端的研究の強化、異分野融合的研究の推進、研究成果の社会実装に向けた提言等を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和6年4月 規模等：※土地 778, 523㎡(木花キャンパス) 建物— ※土地の面積は、キャンパスの総面積									
	名称：フロンティア科学総合研究センター 目的：本学における重点研究分野を中心とした研究及び本学の教育研究全般の実験支援を行い、生命科学研究を始めとする重点研究分野についての教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 設置年月：平成15年4月 規模等：※土地 778, 523㎡(木花キャンパス) 建物 1, 877㎡ 224, 316㎡(清武キャンパス) 建物 4, 307㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積									
	名称：産業動物防疫リサーチセンター 目的：本学の教育・研究戦略に基づき、産業動物の重要な伝染病に対する疫学、国際防疫及び診断・予防法に関する先端的研究を行うこと、加えて発生時の防疫措置の立案及び再発防止等の適切な対策を講じることのできる危機管理能力を有した人材を養成し、産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として、国内外の畜産基盤の安定化に寄与することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成23年10月 規模等：※土地 778, 523㎡(木花キャンパス) 建物 1, 816㎡（農学部内に設置のためフロア面積を記載） ※土地の面積は、キャンパスの総面積									
	名称：GX研究センター 目的：GXに関する研究開発、GX技術による地域防災レジリエンスのための研究開発及び実践的人材育成により、GXに関する教育・研究の拠点として、国内外のカーボンニュートラル実現に貢献することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和6年4月 規模等：※土地 778, 523㎡(木花キャンパス) 建物 19㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積									
	名称：学び・学生支援機構 目的：学部及び大学院等の各教育プログラムと連携した教学マネジメント及び入学者選抜を通して、教育の質を保証し、学修者自身が課題を見出し、解決に必要な知識や技能等を求める学びの支援し、また、高等教育機関や産業界等の地域と共働することで、多様な豊かな学びを経験できる機会を企画及び運営すること、及び本学学生が安心して学修できるよう、就職及び進学を含む学生生活全般を支援することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和4年10月 規模等：※土地 778, 523㎡(木花キャンパス) 建物 1, 018㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積									

名称：研究・産学地域連携推進機構 目的：研究の活性化及び高度化に係る施策の企画、実施、研究活動の支援等を行い、また、国内外の機関及び企業との産学連携事業の推進及び支援並びに研究成果の活用及び社会還元を進め、地域社会及び産業の振興に寄与することを推進する。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和4年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 3,127㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：国際連携機構 目的：国際学術研究・国際教育及び国際協力を推進し、本学及び地域社会の国際化に貢献することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和4年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 650㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：附属図書館・医学分館 目的：学術情報の収集・蓄積・提供、学習環境の整備を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 設置年月：昭和49年6月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 4,977㎡ 224,316㎡(清武キャンパス) 建物 1,908㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：教育学部附属教育協働開発センター 目的：学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 534㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：医学部附属病院 目的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。 診療科数：30診療科 病床数：604床（共通病床等を含む） 所在地：宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 設置年月：昭和52年4月18日 開院年月：昭和52年10月31日 規模等：土地 224,316㎡(医学部全体の面積) 建物 77,296㎡	
名称：農学部附属次世代農学教育研究センター 目的：フィールドにおける農学ジェネラリティ教育、農学基本分野を横断した実践型農学DX教育及び地域のニーズを踏まえた他学部との組織的な融合教育・研究を行うことを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地（木花フィールド） 宮崎県宮崎市大字島之内10100-1（住吉フィールド） 宮崎県宮崎市田野町乙 11300（田野フィールド） 宮崎県延岡市赤水町 376-6（延岡フィールド） 設置年月：令和7年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 2,615㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積 土地 502,040㎡(住吉フィールド) 建物 9,754㎡ 土地 6,185,887㎡(田野フィールド) 建物 990㎡ 土地 6,104㎡(延岡フィールド) 建物 1,069㎡	
名称：農学部附属動物病院 目的等：動物診療（二次診療病院）、地域の獣医師の相談・研修の施設等の提供を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：昭和28年8月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,867㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：農学部附属農業博物館 目的等：農業に関する調査研究・実物標本、模型、文献等を収集・保管・展示することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成10年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 766㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：大学院地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センター 目的：地域課題の解決に向けた実践的な高度人材養成のため、地域資源の見える化・デジタル化を通じた情報システムの活用によるAI時代の人材育成の新たな拠点として、県内地方自治体及び他部局と連携を図り、宮崎大学による地方創生支援に寄与することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：令和2年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 25㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	

名称：教育学部附属幼稚園 目的：幼児の保育及び幼稚園の教育研究・教育実習・教育振興を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市船塚1丁目1番地 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地 21,797㎡ 建物 913㎡	
名称：教育学部附属小学校 目的：児童の教育及び小学校の教育研究・教育実習・教育振興を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番49号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 39,980㎡(附属中学校の敷地を含む) 建物 7,162㎡	
名称：教育学部附属中学校 目的：生徒の教育及び中学校の教育研究・教育実習・教育振興を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番67号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 39,980㎡(附属小学校の敷地を含む) 建物 7,409㎡	
名称：IRセンター 目的：大学の目標・計画、運営方針の策定及び意思決定を支援することを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 632㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：総合技術センター 目的：教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、 技術の継承及び保存並びに技術研修を行うことを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 ー 224,316㎡(清武キャンパス) 建物 ー ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：安全衛生保健センター 目的：学生及び職員の心身の健康の保持増進・全学的な安全衛生管理を目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成17年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 434㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積	
名称：情報基盤センター 目的：宮崎大学における情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤の運用管理を 行うとともに、利用者支援を行うことを目的とする。 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成22年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,254㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康科学研究科心理学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員		
共通研究科目	臨床倫理実践論	1前		2			○			1		1			8	オムニバス	
	健康科学研究方法論	1前		2			○			1					3	オムニバス	
	小計（2科目）	—		—	4	0	0	—			2	0	1	0	0	9	
専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前		2			○	※		1						※演習
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1後		2			○	※					1			※演習
		福祉分野に関する理論と支援の展開	1後		2			○					1				
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前		2			○			1						
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	2前		2			○	※		1					※演習	
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2前		2			○							1	集中	
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1後		2			○	※		1					※演習	
	小計（7科目）	—	—	14	0	0	—			3	0	1	1	0	1		
	理論と実践科目	心理的アセスメントに関する理論と実践	1前		2			※	○			1					※講義
		心理支援に関する理論と実践	1後		2			※	○		1						※講義
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2前		2			※	○		2	1	1				※講義
		心の健康教育に関する理論と実践	1後		2			○			2	1					オムニバス
	小計（4科目）	—	—	8	0	0	—			2	1	1	0	0	0		
	実習科目	心理実践実習ⅠA(基礎実習)	1通		1					○		1		1		1	オムニバス・ 共同（一部）
心理実践実習ⅠB(教育・福祉)		1前	2						○	1	1		1				
心理実践実習ⅠC(保健医療)		1後	2						○		1		2		1		
心理実践実習ⅠD(産業・労働、司法・犯罪)		1通	1						○	1	1				1		
心理実践実習ⅡA(GSV・ケースカンファレンス)		2通	1						○	2	1		2				
心理実践実習ⅡB(教育・福祉)		2後	1						○	1	1		1				
心理実践実習ⅡC(保健医療)		2前	2						○		1		2		1		
小計（7科目）	—	—	10	0	0	—			3	1	0	2	0	2			
究 特 科 別 目 研	心理学特別研究Ⅰ	1後		2				○		3	1		1				
	心理学特別研究Ⅱ	2通		4				○		3	1		1				
	小計（2科目）	—		—	6	0	0	—			3	1	0	1	0	0	
	(研究指導)	1～2		—			—			3	1	0	1	0	0		
	小計	—		—	—			—			3	1	0	1	0	0	
合計（22科目）		—	—	42	0	0	—			3	1	1	2	0	10		
学位又は称号		修士（心理学）			学位又は学科の分野				文学関係								
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法									授 業 期 間 等								
【履修方法】 1 研究科共通科目 4単位 [必修] 2 専門科目 32単位 [必修] 3 特別研究 6単位 [必修] 【修了要件】 修了要件は、本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目22科目（42単位）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格した者とする。また、長期履修制度による在学期間は最長4年間とする。									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康科学研究科心理学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員		
共通研究科目	臨床倫理実践論	1前		2			○			1		1			8	オムニバス	
	健康科学研究方法論	1前		2			○			1					3	オムニバス	
	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—			2	0	1	0	0	9		
専門科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1後		2			○	※					1			※演習	
	小計（1科目）	—		—	2	0	0	—			0	0	0	1	0	0	
	実習科目	心理実践実習ⅠA(基礎実習)	1通		1					○		1		1		1	オムニバス・ 共同（一部）
		心理実践実習ⅠC(保健医療)	1後		2					○		1		2		1	
		心理実践実習ⅠD(産業・労働、司法・犯罪)	1通		1					○	1	1				1	
		心理実践実習ⅡA(GSV・ケースカンファレンス)	2通		1					○	2	1		2			
		心理実践実習ⅡC(保健医療)	2前		2					○		1		2		1	
	小計（5科目）	—	—	7	0	0	—			3	1	0	2	0	2		
特別研究	心理学特別研究Ⅰ	1後		2				○			1		1				
	心理学特別研究Ⅱ	2通		4				○			1		1				
	小計（2科目）	—	—	6	0	0	—			0	1	0	1	0	0		
	（研究指導）	1～2		—			—				1		1				
	小計	—		—	—			—			0	1	0	1	0	0	
合計（10科目）		—	—	19	0	0	—			3	1	1	2	0	9		
学位又は称号		修士（心理学）			学位又は学科の分野					文学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
【履修方法】 1 研究科共通科目 4単位 [必修] 2 専門科目 32単位 [必修] 3 特別研究 6単位 [必修] 【修了要件】 修了要件は、本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目22科目（42単位）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格した者とする。また、長期履修制度による在学期間は最長4年間とする。									1学年の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(健康科学研究科心理学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員		
専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前		2			○	※		1						※演習
		福祉分野に関する理論と支援の展開	1後		2			○				1				※演習 集中 ※演習	
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前		2			○			1						
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	2前		2			○	※		1						
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2前		2			○						1			
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1後		2			○	※		1						
		小計（6科目）	—		—	12	0	0	—			3	0	1	0	0	1
	理論と実践科目	心理的アセスメントに関する理論と実践	1前		2			※	○			1					※講義
		心理支援に関する理論と実践	1後		2			※	○		1					※講義	
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2前		2			※	○		2	1	1			※講義	
		心の健康教育に関する理論と実践	1後		2			○			2	1				オムニバス	
		小計（4科目）	—		—	8	0	0	—			2	1	1	0	0	0
	実習科目	心理実践実習ⅠB(教育・福祉)	1前		2					○	1	1		1			
		心理実践実習ⅡB(教育・福祉)	2後		1					○	1	1		1			
		小計（2科目）	—		—	3	0	0	—			2	1	0	1	0	0
	特別研究	心理科学特別研究Ⅰ	1後		2					○	3						
		心理科学特別研究Ⅱ	2通		4					○	3						
小計（2科目）		—	—		6	0	0	—			3	0	0	0	0	0	
	（研究指導）	1～2		—			—			3							
	小計	—		—	—			—			3	0	0	0	0	0	
	合計（14科目）	—		—	29	0	0	—			3	1	1	1	0	1	
学位又は称号		修士（心理学）			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
【履修方法】 1 研究科共通科目 4単位 [必修] 2 専門科目 32単位 [必修] 3 特別研究 6単位 [必修] 【修了要件】 修了要件は、本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目22科目（42単位）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格した者とする。また、長期履修制度による在学期間は最長4年間とする。										1 学年の学期区分				2期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業の標準時間				90分			

授業科目の概要				
（健康科学研究科心理学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科共通科目	臨床倫理実践論		看護や臨床心理などのヒューマンケアにおける倫理的課題に対して、倫理的感受性を高め問題の同定・分析及び問題解決に向けての専門的対応に必要な倫理原則・倫理理論、道徳的スキルトレーニングの方法について教授する。臨床で遭遇する倫理的問題を含む事例検討を通して、関係者間・多職種間での倫理的調整について考察・探究できる能力を育成する。 （オムニバス方式/15回） （⑦ 野間口 千香穂/3回） 第1回 ガイダンス：ヒューマンケア倫理概説・組織における臨床倫理に関する教育・支援・審議体制 第11回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（4）遺伝情報とELSIの観点から 第15回 まとめ（プレゼンテーション・討議） （12 澤田 浩武/1回） 第2回 治療決定が困難な状況下における倫理的課題（1）小児医療の現場から （15 金子 政時/1回） 第3回 治療決定が困難な状況下における倫理的課題（2）周産期医療の現場から （8 板井 孝一郎/4回） 第4回 臨床倫理の基礎理論：倫理的推論スキルトレーニング 第5回 倫理的推論トレーニング（1）「新人に対する倫理的指導のあり方」 第6回 倫理的推論トレーニング（2）「誤嚥性肺炎リスク患者の治療方針をめぐって」 第7回 倫理的推論トレーニング（3）「個人情報保護とがん告知の倫理的ポイント」 （11 柳田 俊彦/1回） 第8回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（1）臨床薬理の観点から （14 木下 由美子/1回） 第9回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（2）エンド・オブ・ライフの観点から （13 板谷 智也/1回） 第10回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（3）公衆衛生活動の観点から （⑥ 田上 博喜/1回） 第12回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（5）精神医療と当事者の権利擁護の観点から （5 尾崎 充希/1回） 第13回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（6）障がい児の権利擁護の観点から （② 立元 真/1回） 第14回 ヒューマンケアの現場における倫理的課題と調整（7）学校における多職種連携の観点から	オムニバス方式
	健康科学研究方法論		看護や臨床心理などのヒューマンケアにおける研究の位置づけと成果を実践に還元することの意義を理解し、研究倫理に関する理解を深め、研究のプロセスを概観し、より妥当で信頼性の高い研究のために必要な量的研究法（統計解析法の学修を含む）や質的研究法などの知識・方法論について学習する。また、それぞれの研究方法を用いた研究論文のクリティークを通して、各自の研究活動の基礎とする。 （オムニバス方式/15回） （⑧ 吉永 尚紀/6回） 第1回 ガイダンス・看護研究方法総論：看護や臨床心理などのヒューマンケアにおける研究の役割、研究デザインと主な研究方法 第2回 文献検索と文献検討：文献検索の方法（図書館） 第3回 文献検索と文献検討：研究における文献検討の目的と活用 第4回 研究と倫理：看護や臨床心理などのヒューマンケアにおける研究の倫理的課題と配慮 第8回 量的研究④：介入研究 第15回 クリティーク論文の発表・討議 （① 境 泉洋/3回） 第5回 量的研究①：質問紙の設定 第6回 量的研究②：質問紙調査の計画 第7回 量的研究③：質問紙調査の実施 （⑥ 田上 博喜/2回） 第9回 量的研究⑤：データの種類と整理・基本統計量の算出と統計的検定 第10回 量的研究⑤：データの種類と整理・基本統計量の算出と統計的検定[演習] （⑦ 野間口 千香穂/4回） 第11回 質的研究①：質的アプローチと研究デザイン、質的研究のプロセスと主な研究方法 第12回 質的研究②：質的研究の特性と課題、質的研究のデータ収集と分析方法 第13回 質的研究③：面接法と観察法、看護現象の構造と解明のためのデータ分析 第14回 質的研究④：結果の書き方[演習]	オムニバス方式

専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ		公認心理師として保健医療分野で支援を展開する際に必要とされる基礎的な心理支援の各種理論と技法を学び、我が国の医療・社会制度を理解し、多職種連携の中で安全かつ倫理的に心理支援を提供できる能力の育成を目的とする。特に認知行動療法や行動科学・行動医学的な理論と技法を臨床応用することに重点を置いた内容となっている。	講義18時間 演習12時間
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ		必修科目「保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」を踏まえ、保健医療分野での更なる実践的な学びを目指した内容となっている。具体的には、数多い精神疾患をはじめ、発達・加齢、救急やリエゾン、緩和医療といった多様な医療場面での支援について学ぶ。またメタ認知トレーニングや認知行動療法等の、科学的根拠に基づいた治療法・支援技法の医療場面への応用について学ぶ。これらの学びを通じ、医療制度の枠組み（関連法や医療保険制度、医療安全・医療倫理等の原則）との均衡の中で、より効果的で個別性の高い支援計画を構想、立案し、実践できることを目標とする。	講義16時間 演習14時間
		福祉分野に関する理論と支援の展開		福祉分野における理論と実践の基礎を学び、障害・家族・認知症など多様な課題を心理社会的視点から理解する力を養う。併せて、具体的なアセスメントや心理的支援の手法について学習し、理論に基づいて支援を構想・実践する力を育成する。さらに多職種連携、制度を活用した支援方法について学習し、包括的支援の理論的枠組みと現状理解を深める。	
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ		学校教育において行われる、教える、叱る、幼児・児童・生徒や保護者との面談や対人関係の構築・維持・改善などの教育現場での心理的支援を扱う。教育分野における各種の支援活動を基本理論から整理するとともに、エビデンスやアセスメントに基づいた支援を選択・構築する技法を身につける。また、教員や保護者などとの協働やコンサルテーションを通して、同僚性の中で問題解決を進める姿勢と実践スキルを習得する。	
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ		必修科目「教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」で得た基礎知識を発展させ、チーム学校の一員としての公認心理師の実践的役割を演習形式で深く学ぶ。いじめ、不登校、発達障害、児童虐待等の現代的教育課題に対し、認知行動療法的アプローチやコンサルテーション、コーディネートなどをどのように適用し、教職員や保護者と連携して支援を展開するかを修得する。	講義26時間 演習 4時間
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開		司法・犯罪分野に関わる理論、及び公認心理師の役割、総合的支援のための多職種連携などについて基本的な知識を身につけ、実務経験を有するゲストスピーカーから実際の話を聞いたり、事例の検討や討論を通して、実際の心理学的支援を幅広く学ぶ。	集中
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開		現代社会では、長時間労働や雇用形態の多様化、ハラスメント問題、メンタルヘルス不調による長期休業の増加等、近年の労働環境の変化が、労働者の心身の健康に重大な影響を及ぼしている。本講は、産業・労働分野における対人支援職（本講シラバスでは公認心理師、看護師、保健師、助産師等の支援の場を想定）による心理社会的支援について、その理論・制度や法・実践の基礎を体系的に学修することを目的とする。 具体的には、我が国の産業保健体制や関連法令、産業・労働分野に関連した学問領域（保健学や予防医学、行動医学）、長期病休者の復職支援、就業上の合理的配慮提供等における対人支援職の役割を理解し、産業・労働という文脈の中で適切な支援を構想できる能力の養成を目指す。特に認知行動療法および行動科学・行動医学的な理論と技法に重点を置く。	講義24時間 演習 6時間
	理論と実践科目	心理的アセスメントに関する理論と実践		公認心理師の業務の基本として、さまざまな心理的アセスメントを適切に実施し、心理に関する相談、助言、指導等へ応用する実践力を身につける。具体的には、知能検査や認知機能検査などの各種心理検査及び行動観察法や構造化面接法の実施体験を通じて検査手法を修得し、その結果の解釈について演習形式で学ぶ。さらに、心理的アセスメントの実施から結果の報告までのプロセスについての基本的な技能を身につけるとともに、心理相談、助言、指導等へ応用する実践力を身につける。	講義16時間 演習14時間

	心理支援に関する理論と実践		公認心理師の業務の核となる心理的支援の理論と技法を体系的に学ぶ。科学者－実践家モデルの理念に基づき、科学的根拠に基づいた心理支援の実装方法を身につける。具体的には、認知行動療法（CBT）を中心としつつ、力動的アプローチや人間性アプローチ等の諸理論も扱い、支援対象者の特性や文脈に合わせた最適な支援方法の選択と調整（ケースフォーミュレーション）の能力を養う。	講義15時間 演習15時間
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践		家族や集団、地域社会における心理的支援の理論とその実践方法について学ぶ。家庭教育やひきこもり、精神疾患、障害など、さまざまな状況に応じた支援の現状や課題を理解し、行動的アプローチや認知的アプローチに関する基本的な理論を基盤に、集団的・個別的な支援プログラムの実践演習を行う。さらに、発達段階や成育歴の違いといった支援対象者の背景を踏まえた支援の在り方や、家族やきょうだい児に対する支援についても具体的に検討し、演習・協議を通じて、家族・集団・地域社会における心理支援の理論的理解と実践能力の双方を総合的に養う。 （オムニバス方式/15回） （② 立元 真/4回） 第1回 家庭教育支援の現状と課題（予防的集団施行と個別施行, 年齢段階ごとのプログラム）行動論, 認知行動論と発達段階 第2回 基本プログラム演習①「集団的予防PT」プレゼンと演習振り返りシート課題 第3回 基本プログラム演習②「個別施行の対処的PT」プレゼンと演習 第4回 基本プログラム演習③「個別施行の治療的PT」プレゼンと演習 （① 境 泉洋/4回） 第5回 ひきこもりの現状と支援の概要 第6回 ひきこもりの未成年の当事者に対する家族・集団・社会支援 第7回 ひきこもりの成人年の当事者に対する家族・集団・社会支援 第8回 ひきこもり者の家族に対する集団・社会支援 （④ 久保 浩明/3回） 第9回 精神疾患やアディクションをもつ未成年患者への家族・集団・社会支援 第10回 精神疾患やアディクションをもつ成年患者の家族への集団・社会支援 第11回 精神疾患やアディクションをもつ成年患者の家族への集団・社会支援 （5 尾崎 充希/4回） 第12回 障害を持つ子どもを対象とした家族・集団・社会支援 第13回 きょうだい児を対象とした家族・集団・社会支援 第14回 障害を持つ青年を対象とした家族・集団・社会支援 第15回 障害を持つ成人を対象とした家族・集団・社会支援	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
	心の健康教育に関する理論と実践		心の健康増進を図り疾病や不適応の予防につなげる支援の考え方について学ぶとともに、実践のための認知行動療法に基づいた具体的な技能を身につける。さらに、生涯発達に沿った代表的な心の健康教育の内容を理解する。そして、心理支援実践者にとって必要となる支援対象者への総合的支援のための多職種連携によるチームアプローチについて学修する。 （オムニバス方式/15回） （① 境 泉洋/2回） 第1回 心が健康であるということ 第2回 ストレスとストレスマネジメント （④ 久保 浩明/2回） 第3回 ストレスと身体症状 第4回 ストレスと精神症状 （② 立元 真/11回） 第5回 リラクゼーションプログラム 第6回 問題解決思考法 第7回 認知再構成法 シナリオ法 第8回 認知再構成法 コラム法 第9回 マインドフルネスⅠ 第10回 マインドフルネスⅡ 第11回 レジリエンスとは 第12回 レジリエンス育成プログラム 第13回 生涯発達と心の健康Ⅰ 妊娠・出産・子育てとストレス 第14回 生涯発達と心の健康Ⅱ キャリア・中年期とストレス 第15回 生涯発達と心の健康Ⅲ 自殺予防	オムニバス方式
実習科目	心理実践実習ⅠA（基礎実習）		心理に関する支援を要する者等に対する支援の陪席や補助を中心とした支援場面の体験を通じて公認心理師に必要な知識・技能を修得し、学外実習の心構えを身に着けるとともに、ケースを担当する準備を進める。前期では心理に関する支援の概要や支援における倫理的態度、基本的な接遇についてロールプレイを交えながら学ぶ。後期では学内施設において、心理に関する支援を要する者の同意が得られたケースに対してインテーク面接や心理面接の陪席、心理検査の補助及び実施、心の健康教育及び情報の提供等の活動の補助等を行いながら、実習演習担当教員の指導のもとでケースを担当する。	

		心理実践実習ⅠB (教育・福祉)		心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、公認心理師に必要な知識・技能を修得する。地域の教育・福祉施設において、各施設の指導者の陪席等による支援の観察や支援の補助を通じて、心理支援の実際や心理検査の効果的な使用、施設職員をはじめとする多職種連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識・技術及び態度を体験的に学ぶ。各施設の実習に際しては担当教員による事前・事後指導を行い、学修効果の向上を図る。	
		心理実践実習ⅠC (保健医療)		心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、公認心理師に必要な知識・技能を修得する。地域の保健医療機関において、各施設の指導者の陪席等による支援の観察や支援の補助を通じて、認知行動療法を中心とした心理支援の実際や心理検査の効果的な使用、集団プログラムの進め方、多職種連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識・技術及び態度を体験的に学ぶ。各施設の実習に際しては担当教員による事前・事後指導を行い、学修効果の向上を図る。	
		心理実践実習ⅠD (産業・労働、司法・犯罪)		心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、公認心理師に必要な知識・技能を修得する。地域の司法・犯罪及び産業・労働施設において、各施設の見学や指導者の陪席等による支援の観察や補助を通じて、心理支援の実際や心理検査の効果的な使用、グループセラピーの進め方、施設職員をはじめとする多職種連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識・技術及び態度を体験的に学ぶ。各施設の実習に際しては担当教員による事前・事後指導を行い、学修効果の向上を図る。	
		心理実践実習ⅡA (GSV・ケースカンファレンス)		学内施設において、心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、公認心理師に必要な知識・技能を修得する。インテーク面接や心理面接、心理検査、心の健康教育及び情報の提供等の活動を行い、担当ケースや実施した心理検査についてグループ・スーパービジョン（GSV）やケースカンファレンスを通じてケース報告を行うことで、公認心理師として心理支援に当たるための倫理観や責任感、プレゼンテーション技能等を習得する。また、医師や看護師、学校教員を目指す学生と合同ケースカンファレンスを実施する機会を設けることで、多職種連携の視点を身に着ける。 (オムニバス方式・共同（一部）/15回) (④ 久保 浩明) 心理相談室の運營業務、インテーク面接、継続面接、心理検査について講義や陪席、ケース実習を通じて心理支援の実践を学ぶ。ケース及び心理検査の報告書類の作成について指導を受け、心理支援について継続的に議論を行う。 (① 境 泉洋) 心理検査、認知行動療法、ケース・フォーミュレーション、教育及び福祉分野との多職種連携について講義を受け、必要に応じて学外の支援機関等と多職種連携を行う。 (⑤ 北島 和俊) 心理療法、保健医療分野の施設での心理職の役割について講義を受け、必要に応じて医師や看護師を目指す学生との合同ケース検討を通じて保健医療分野における心理支援について学ぶ。 (7 岩本 佳那絵) 心理相談室の運營業務、心理検査、ケース・フォーミュレーションについて講義や陪席、ケース実習を通じて心理支援の実践を学ぶ。 (② 立元 真) 心理検査、認知行動療法、教育分野との多職種連携について講義を受け、必要に応じて教員を目指す学生との合同ケース検討を通じて教育分野における心理支援について学ぶ。 (④ 久保 浩明、① 境 泉洋、⑤ 北島 和俊、7 岩本 佳那絵、② 立元 真) 学内実習として、心理相談室でケースを担当し、GSVやケースカンファレンス、及びスーパービジョンを通じて心理支援の実践を学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）
		心理実践実習ⅡB (教育・福祉)		地域の教育・福祉施設において、各施設の指導者の指導のもとケースを担当（心理検査、面接等）し、支援計画の立案や実施、評価を行う。これらを通じて、施設職員をはじめとする多職種連携の在り方や地域課題への対応など、公認心理師が身につけるべき高度な知識・技術及び態度を体験的に学ぶ。各施設の実習に際しては担当教員による事前・事後指導を行い、学修効果の向上を図る。	
		心理実践実習ⅡC (保健医療)		心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、公認心理師に必要な知識・技能を修得する。心理実践実習ⅠC(保健医療)に引き続き、地域の保健医療機関において、各施設の指導者の指導のもとで陪席等による支援の観察や支援の補助に加えて、同意が得られたケースの支援や検査等の担当を通じて、認知行動療法を中心とした心理支援の実際や心理検査の効果的な使用、集団プログラムの進め方、多職種連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識・技術及び態度を体験的に学び、理解を深める。各施設の実習に際しては担当教員による事前・事後指導を行い、学修効果の向上を図る。	

特別研究科目	心理科学特別研究Ⅰ		研究倫理に関する理解を深めるとともに科学者－実践家モデルに基づき、臨床実践における疑問から研究課題を見出し、論理的・科学的な探究を行うための基盤を作る。学生個別の関心に基づき、国内外の先行研究の精査を通じて、学術的・臨床的意義のある独創的な研究テーマを設定し、適切な研究方法（量的研究法や質的研究法）の選定、倫理的配慮と研究倫理審査申請の手続き、詳細な研究計画書を作成する技法を習得する。	
	心理科学特別研究Ⅱ		「特別研究Ⅰ」で作成した計画に基づき、収集されたデータや知見を適切な統計解析法などを用いて解析・解釈し、学術論文として論理的に構成する高度な能力を修得する。得られた知見を多角的な視点から考察し、臨床実践や地域課題の解決にどのように還元できるかを探究する。また、研究成果を専門家コミュニティに向けて効果的に発信するためのプレゼンテーション能力を磨く。	
	(研究指導)		修士論文の作成を最終目標とする研究指導であり、修士課程１年目に１回～３０回、修士課程２年目に３１回～６０回を予定している。入学オリエンテーション時に研究指導方法、研究倫理審査申請方法と受講プログラム、修士論文作成までのスケジュールと審査時期を具体的に説明する。そのうえで、個人面談を実施し、研究テーマや希望進路等に基づいて主指導教員と副指導教員を決定する。副指導教員は主指導教員の専門分野と近接する分野を専門とする教員とする、ただし、複数の分野・領域にわたる研究テーマを持つ院生については、２名以上の副指導教員を置く場合がある。 上記指導体制を１年次４月に決定した後、指導教員及び副指導教員（各１人）は連携しながら、学生の研究テーマに応じて研究指導計画書を作成する。その計画にしたがって、地域における心理的諸課題の解決に向けて認知行動療法に関連する理論研究や実践研究の研究指導を行う。１年次は、研究指導の基礎となる「健康科学研究方法論」（１年次前期）「心理科学特別研究Ⅰ」（１年次後期）を履修しながら、学生のテーマに応じて研究計画の立案を行い、関係する先行研究論文や情報の収集を行いつつ研究の準備を進める。１年次前期終了時には、専攻の全学生・教員による研究構想発表会を実施し、そこで得られた助言を踏まえて、研究課題・研究計画のブラッシュアップを重ねる。１年次後期終了時にも研究構想発表会を実施し、２年次の研究遂行に向けて準備する。２年次には、学位論文題目を決定し、研究指導の基礎となる「心理科学特別研究Ⅱ」（２年次通年）を履修しながら、研究計画にしたがって研究を推進する。２年次前期終了時には、専攻の全学生・教員による研究中間発表会を実施し、そこで得られた助言を参考にしながら研究データの分析ならびに考察をまとめ、修士論文の完成を目指す。 各教員は以下の専門分野に基づき指導を行う。 (① 境 泉洋) 臨床心理学 (② 立元 真) 臨床心理学 (③ 武田 龍一郎) 精神神経科学 (④ 久保 浩明) 臨床心理学 (⑤ 北島 和俊) 精神神経科学	

国立大学法人宮崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和 8 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
宮崎大学			
教育学部			
学校教育課程	140	—	560
医学部			
医学科（6 年制）	100	—	600
看護学科	60	—	240
工学部		3 年次	
工学科	370	10	1,500
農学部			
農学科	235	—	940
獣医学科（6 年制）	30	—	180
地域資源創成学部			
地域資源創成学科	90	—	360
計	1,025	10	4,380

令和 9 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宮崎大学				
教育学部				
学校教育課程	140	—	560	
医学部				
医学科（6 年制）	100	—	600	
看護学科	60	—	240	
工学部		3 年次		
工学科	370	10	1,500	
農学部				
農学科	235	—	940	
獣医学科（6 年制）	30	—	180	
地域資源創成学部				
地域資源創成学科	90	—	360	
計	1,025	10	4,380	

国立大学法人宮崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
宮崎大学大学院			
教育学研究科			
教職実践開発専攻 (P)	20	—	40
看護学研究科			
看護学専攻 (M)	10	—	20
工学研究科			
工学専攻 (M)	144	—	288
農学研究科			
農学専攻 (M)	68	—	136
地域資源創成学研究科			
地域資源創成学専攻 (M)	5	—	10
医学獣医学総合研究科			
医科学獣医科学専攻 (M)	10	—	20
医学獣医学専攻 (D)	23	—	92
農学工学総合研究科			
資源環境科学専攻 (D)	7	—	21
生物機能応用科学専攻 (D)	4	—	12
物質・情報工学専攻 (D)	5	—	15
計	296	—	654

令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宮崎大学大学院				
教育学研究科				
教職実践開発専攻 (P)	20	—	40	
健康科学研究科				名称変更
看護学専攻 (M)	10	—	20	
心理学専攻 (M)	6	—	12	専攻の設置 (意見伺い)
看護学専攻 (D)	3	—	9	課程変更 (意見伺い)
工学研究科				
工学専攻 (M)	144	—	288	
農学研究科				
農学専攻 (M)	68	—	136	
地域資源創成学研究科				
地域資源創成学専攻 (M)	5	—	10	
医学獣医学総合研究科				
医科学獣医科学専攻 (M)	10	—	20	
医学獣医学専攻 (D)	23	—	92	
農学工学総合研究科				
資源環境科学専攻 (D)	8	—	24	定員変更 (1)
生物機能応用科学専攻 (D)	4	—	12	
物質・情報工学専攻 (D)	8	—	24	定員変更 (3)
計	309	—	687	